

# 国語

「現代の国語，言語文化」

## 現代の国語、言語文化

〔二〕次の問い（問一～問五）に答えなさい。

問一 次の（1）・（2）の熟語や故事成語の説明としてもっとも適切なものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、解答記入欄 

1
---

 ・ 

2
---

 にマークしなさい。

（1） 逐電

- ① こまめに連絡をすること
- ② 休養して活力を回復させること
- ③ 行方をくらまして逃げる事
- ④ 空いたところを詰めてふさぐこと

（2） 屋上屋を架す

- ① 無駄なことをするたとえ
- ② 気の利いたことをするたとえ
- ③ 浪費をすることのたとえ
- ④ 用心を重ねることのたとえ

問二 次の四字熟語の空欄にあてはまるものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 

3
---

 にマークしなさい。

暗中飛□

- ① 翔しょう
- ② 行
- ③ 躍
- ④ 来

## 現代の国語、言語文化

問三 次の(1)・(2)の説明にあてはまるものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、

解答記入欄 4 ・ 5 にマークしなさい。

(1) 心からの深い交際のこと

- ① 類は友を呼ぶ
- ② 血は水よりも濃い
- ③ 竹馬の友
- ④ 刎頸はなげいの交わり

(2) 見かけは異なっているが中身は同じであること

- ① 同工異曲
- ② 呉越同舟
- ③ 異口同音
- ④ 付和雷同

問四 類義語の組み合わせとしてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入

欄 6 にマークしなさい。

- ① 公益 | 公算
- ② 積年 | 隔年
- ③ 名残なごり | 余韻
- ④ 入念 | 用意

## 現代の国語、言語文化

問五 次の(1)・(2)の語句の使い方としてもっとも適切なものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、解答記入欄 

7
---

 ・ 

8
---

 にマークしなさい。

(1) イニシアチブ

- ① ライバルのイニシアチブに追従する。
- ② 試合のイニシアチブを握る。
- ③ 彼のイニシアチブにまんまと嵌はまった。
- ④ 新しいイニシアチブを考案する。

(2) 漸進的

- ① 目標に向かって漸進的に改良を進めていく。
- ② 漸進的な改革に誰もついていけない。
- ③ 時間がないので漸進的に片付けよう。
- ④ 多様性を重んじる漸進的な社会を目指す。

## 現代の国語、言語文化

(二) 次の問い(問一～問二)に答えなさい。

問一 次の問題文(1)～(3)について、文意に照らして正しいものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、解答記入欄 

9
---

 ～ 

11
----

 にマークしなさい。

(1) 質量の大きな星は寿命をむかえた際に超新星爆発を起こすが、その直前の1年に満たない期間で、星の明るさは可視光で一〇〇倍程度暗くなる。 

9
---

- ① 超新星爆発が起きる直前には、その星の輝きが短期間で急激に消失する。
- ② 可視光での星の明るさは、どの星も寿命直前に比べると一〇〇倍程度明るい。
- ③ 超新星爆発を起こす星は質量が大きく、寿命が来る前に暗くなる。
- ④ 寿命を間近にした星は、突如暗くなってから1年後に超新星爆発を起こす。

(2) 地球の気温が2度以上上昇すると、干ばつや熱波の頻発化のリスクが高まるため、ワインの生産地域の90%が、21世紀末までにワイン生産に適さなくなる可能性がある。 

10
----

- ① 現在のワイン生産地は、2度以上の気温上昇で90%が生産に影響を受けるかもしれない。
- ② 干ばつや熱波によって、ワインの生産地域の気温が上昇するリスクが高まるだろう。
- ③ 安定してワインを生産するためには、気温の上昇を防ぐ対策が不可欠であろう。
- ④ 地球の気温が2度以上上昇すると、ワインの生産に適さない地域が増えるだろう。

(3) 画像生成AIでイメージ通りの絵を生成するのは難しいとされているが、デザインを事前学習させることで、絵を描き進める一筆ずつの線から描き手のイメージした構図を類推し、完成予想のイラストを生成できるAIが開発された。 

11
----

- ① 従来の画像生成AIは、事前学習をしなければ描き手が思い描く通りのイラストを生成することはできない。
- ② 新たに開発されたAIは、さまざまな絵の図案を参照することで、描き手のイメージに近い構図のイラストを生成できる。
- ③ 描き手の意図を反映したイラストを生成するには、AIに描き手の一筆ずつの作画手順を学習させる必要がある。
- ④ 事前学習を行えば、描き進めるごとにAIが最適な構図を提案し、それに従ってイメージ通りのイラストを描くことができる。

## 現代の国語、言語文化

問二 次の問題文を読んで、後の問い(1)～(3)に答えなさい。

現在、世界で運用中の人工衛星は約9千基。内閣府によると、22年に打ち上げられた衛星などは世界で2368機で、10年で約11倍に増加している。

増加の中心を占めるのが、基地局となる多数の衛星を打ち上げて、連携させて高速で大容量の通信サービスを提供する「衛星コンステレーション」だ。牽引するけんいんのがアメリカの人工衛星システム「スターリンク」で6千機以上が打ち上げられている。今後4万2千基の巨大な通信網の構築をめざしている。

これまでの調査によると、スターリンク衛星の明るさは2～7等級。肉眼で見えるほど明るいものもある。

スターリンクは災害時には大きな効果を発揮している。今年1月の能登半島地震では、通信基地局が被害を受け、被災地の通信は寸断されたが、避難所などにアンテナが提供され、通信が可能に。災害医療派遣チーム「DMAT」が診療データの伝送やウェブ会議に使用するなど、被災地での医療活動を支えた。

地球上どこでも通信を可能にしようと、スターリンクを運営する企業は高度約550キロといった地球低軌道に多くの衛星を網の目状に張り巡らせる。欧米や中国、日本企業も、低軌道への衛星群の打ち上げや検討を進める。

だが、低軌道の衛星がさらに増えれば、天文学への光害の影響は大きくなる。国際天文学連合(IAU)は衛星の明るさを制限するよう求めている。

ハワイのすばる望遠鏡の広視野望遠鏡では、観測画像の約10枚に1枚の割合で人工衛星が映りこんでいるという。光跡が観測対象の天体と重なってしまえば、観測データとして使えなくなる。23年3月に発表された論文によると、チリで建設中のベラ・ルービン天文台では、今後10年間で観測できる星の数が7・5%減少すると見込まれる。観測にかかる費用がふくらみ、年間損失額は約2180万ドルになると試算する。

二〇二四年四月二十六日『朝日新聞デジタル』より

※問題作成の都合上、文章の一部を改変した

承認番号 26-01719

## 現代の国語、言語文化

(1) 問題文において主旨を展開する前提となっていることを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 12 にマークしなさい。

- ① 人工衛星の数は、衛星コンステレーションの通信サービスの向上によって急増した。
- ② 6千機以上が打ち上げられているスターリンクは、巨大な通信網の要となっている。
- ③ 人工衛星の増加に伴って通信網が拡大し、スムーズな情報共有が可能になった。
- ④ 現在、世界で運用中の人工衛星は約9千基で、過去10年で約11倍に増加している。

(2) 問題文の結論を導く根拠として正しいものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 13 にマークしなさい。

- ① 低軌道に人工衛星が打ち上げられることで、観測画像への映り込みや天体との重なり等、天文学に今後影響がはじめてくると推測される。
- ② スターリンク衛星は災害時に大きな効果を発揮し、通信の寸断された被災地域での医療活動を支える役割を果たしている。
- ③ 人工衛星は肉眼で見えるほど明るいものもあるが、天文学への影響が大きい地球低軌道への衛星群の打ち上げが各国で検討されている。
- ④ 災害時や医療活動のサポートを始めとした通信事業の拡大が求められ、人工衛星の打ち上げ数は今後も増加する見込みである。

(3) 問題文の結論として正しいものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 14 にマークしなさい。

- ① 増加する人工衛星の光跡が天体観測に影響を与え、観測データの有効性の低下や観測経費における損失額の増加が見込まれている。
- ② 国際天文学連合は人工衛星の増加によって天文学への光害が拡大することを懸念しており、低軌道衛星の数を制限するよう求めている。
- ③ 世界的な人工衛星の増加は通信や災害対策においては有益ではあるが、その品質には課題があるため手放しで喜ぶことはできない。
- ④ 人工衛星の光跡により観測できる星の数が減少すると見込まれており、観測にかかる費用について、年間損失額の補填を求めている。

## 現代の国語、言語文化

〔三〕次の問題文を読んで、後の問い（問一～問十二）に答えなさい。

「量」の経済から「質」<sup>A</sup>の経済へと移行し、「所有」「価値」「交換」という現象が変化しているため、新しい経済の台頭が唱えられている。「所有」に対して、シェアリング・エコノミーやコン・エコノミーが唱えられ、また「交換」に対して、ギフト・エコノミー、さらには循環型経済が唱えられていく。しかも、こうした新しい経済の登場は、情報通信技術の発展によるコミュニケーションの拡大と結びついている。

しかし、情報通信技術の発展によるコミュニケーションの拡大は、存在欲求に対して  として機能する。人間と人間とが調和し、愛し合う方向で機能することもあれば、怒りや憎しみを煽り、所有欲求の追求へと駆り立てていく場合もあるからである。

もちろん、存在欲求とは人間と人間、さらには人間と自然との生命の触れ合いで充足される。それ故に生命体に蓄積されたエクセルギーの価値を重視することになる。したがって、情報通信技術も人間の生命活動としての絆を取り戻すために導入されなければならないのである。

そうだとすれば、「量」の経済を「質」の経済に移行させるということは、所有欲求を充足するために、大量生産・大量消費を目指すような経済から転換し、人間の生命の再生と、それを支える自然の自己再生力を取り戻すことを意味している。つまり、人間の生命活動のために自然に働きかける経済システムを、人間の生命活動の論理に従わせることだといつてよい。人間の生命活動のための基礎的ニーズを優先的に充足することは、所有欲求を野放しにせずに、人間と人間、人間と自然とが調和することによって充足される存在欲求を追求していくことを意味している。

（中略）

地域共同体という社会システムでは、構成員が家族内部、さらには家族間の自発的協力によって、生活を保障し合っている。つまり、家族内部や家族間の自発的協力である相互フジヨや共同作業によって生命活動の基礎的ニーズを充足していく。【①】もちろん、こうした自発的協力で基礎的ニーズが充足できない場合には、構成員による共同意思決定にもとづいて、政治システムによる強制的協力で充足することになる。【②】

地域共同体の生命活動に必要な生産物は、地域の自然に働きかけて経済システムが創り出す。

【③】そうした生産活動に必要とされる、共同で利用する施設などの建設や管理なども、地域共同体の構成員あるいは家族の自発的協力によって実施される。【④】

ところが、要素市場が存在する市場社会では、生活の「場」と生産の「場」が分離していることを忘れてはならない。そのため前近代社会を理念型として想定できるように、地域に固有な自然環境に抱かれて、生産活動と生命活動としての生活が統合して行われる地域共同体は崩れていかなるをえなくなる。

要素市場が存在し、工業をキバンとした市場社会が成立すると、自然に働きかける手段である機

## 現代の国語、言語文化

械設備を備えた工場が地域社会に立地され、そこで生産活動は行われる。そのことは地域共同体から生産活動が分離していくことを意味する。地域共同体の構成員は、生産活動の存在する地域社会に働きに行き、生活のみを地域共同体で営むことになる。もちろん、生活そのものを、生産活動の存在する地域社会に移す現象も生じてくる。

農業が「生ける自然」を原材料とするのに対し、工業は「死せる自然」を原材料とする。「生ける自然」を原材料とする農業は、自己再生力のある自然を破壊することはない。自然の自己再生力を破壊してしまえば、農業は自滅してしまうからである。

「死せる自然」を原材料にする工業の生産機能を担う工場は、原材料の入手しやすい都市に立地される。しかし、それは原材料の産地であることを意味しない。むしろ交通の要地であることが条件となる。しかも工業社会では、工業の生産機能が生活機能の「磁場」となるため、原材料が入手しやすい立地に散在する工業都市へと、人口が集まることになる。

ところが、工業社会が軽工業の段階から重化学工業の段階に移行すると、企業規模が巨大化し、工場機能と管理・企画を担う事業所機能が分離してくる。そうなる(1)と管理・企画機能が集中する中枢管理都市と呼ばれる巨大都市が誕生してくるようになる。こうした中枢管理都市が出現すると、それが創り出す巨大市場を狙って、耐久消費財などの戦略産業の生産機能がその周辺に立地してくる。

このように生産の「場」と生活の「場」が分離している工業社会では、生産機能が生活機能の「磁場」となって、生産機能の変動に生活機能が引き回されることになってしまう。その結果として、人間の生命活動が営まれていた地域共同体の自然環境も社会環境も崩れ落ちてしまったのである。

自然環境も社会環境も破壊されていくなかで、いま直面している「根源的危機の時代」を克服しようとする動きが台頭してくるのは当然である。「根源的危機の時代」において、人間の生命が存亡の危機に陥り、誰もがそのことに対して恐怖せざるをえないからである。

**P**、「根源的危機の時代」を演出したリーマン・ショックやコロナ・パンデミックに襲われる以前から、自然環境や社会環境を再生して、人間の生活の「場」としての地域共同体を再創造しようとする運動は始まっていた。**Q**、人間の生命活動に必要な清らかな空気、澄んだ水、

緑の空間を再生しようとする生活者としての運動である。

**E**工業に汚染される以前の自然環境を取り戻すということは、当然ながら、生活様式を自然環境に調和するように形成していくことになる。それは近代以前の生活様式をフッコウさせることでもある。もちろん、生活様式とは文化である。したがって、ヨーロッパでは「環境」と「文化」を合言葉にした、生活の「場」としての地域共同体の再創造運動が展開していくことになる。ヨーロッパ委員会が打ち出した「持続可能な都市 (sustainable city)」も工業の衰退によってコウハイした都市を、**F**「環境」と「文化」を合言葉に生活の「場」としての都市に再生させようとする運動だったと云うことだ。

# 現代の国語、言語文化

神野直彦『財政と民主主義——人間が信頼し合える社会へ』より

※問題作成の都合上、文章の一部を改変した

\* エクセルギー⇨エネルギーの質。

\* 要素市場⇨生産活動のための土地、労働力、資本の市場。

問一 二重傍線部(ア)～(エ)と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、解答記入欄 15 ⇨ 18 にマークしなさい。

(ア) フジヨ

15

- ① 家族をフヨウする
- ② 今年のホウフを語る
- ③ パンコンがフキユウする
- ④ 鉄道をフセツする

(イ) キバン

16

- ① ピアノでバンソウする
- ② バンジャクの備えをする
- ③ カンバンを下ろす
- ④ バンカンの思い

(ウ) フッコウ

17

- ① キユウコウを温める
- ② 福利コウセイを充実させる
- ③ 全国大会のソウコウ会
- ④ 文明のコウボウ

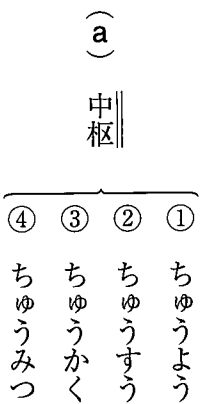
(エ) コウハイ

18

- ① ハイスイの陣を敷く
- ② 夕食をハイゼンする
- ③ ハイオクを取り壊す
- ④ スウハイする人物

# 現代の国語、言語文化

問二 二重傍線部 (a) の漢字の読みとして正しいものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **19** にマークしなさい。



問三 傍線部 A 「質」の経済」とは、どのような「経済」のことを意味しているか。その説明としてみっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **20** にマークしなさい。

- ① 所有や交換をなくし、人間同士のコミュニケーションを拡大させていく経済。
- ② 大量にもものをつくるのではなく、質の良いものだけをつくることを目指す経済。
- ③ 情報通信技術にとられず、シェアや贈与、持続可能な循環を重視する経済。
- ④ 人間の生命活動を第一に重視し、自然の自己再生力を取り戻していく経済。

問四 空欄 **X** に入る語句としてみっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **21** にマークしなさい。

- ① 諸刃の剣 もろは
- ② 渡りに船
- ③ 転ばぬ先の杖 つえ
- ④ 水を得た魚

## 現代の国語、言語文化

問五 傍線部B「所有欲求」にはどのようなように対応すべきか、その説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 22 にマークしなさい。

- ① 所有欲求を追求することで、人間と人間、人間と自然との調和のとれた生活のあり方を実現していくべきである。
- ② 他者や自然とのバランスのとれた関係を構築することを、所有欲求の追求よりも優先していくべきである。
- ③ 「質」の経済への移行に当たり、コミュニケーションの拡大によって所有欲求を抑制していくべきである。
- ④ 生命活動のための基礎的ニーズを充足することで満足し、所有欲求の拡大をとどめていくべきである。

問六 問題文中の【①】～【④】の中から、次の一文が入る箇所を一つ選び、解答記入欄 23 にマークしなさい。

しかも、こうした自発的協力の限界も、構成員の共同意思決定にもとづく強制的協力で克服されることになる。

問七 傍線部C「生活の『場』と生産の『場』が分離している」とはどのようなことか。もっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 24 にマークしなさい。

- ① 生活は家族という共同体で営まれるが、生産は地域共同体において他の家族とともに行われるということ。
- ② 生命活動は家族内部や家族間の協力だけで営まれるが、生産活動を協力して行うには政治という場が必要になるということ。
- ③ 生命活動の充足は地域共同体で行われるが、生産活動は地域社会にある工場などで行われるということ。
- ④ 生活においては生命活動の基礎的ニーズの充足が行われるが、生産においては生命活動に必要なものがつくられるということ。

## 現代の国語、言語文化

問八 傍線部D「工業の生産機能が生活機能の『磁場』となる」とあるが、その具体例としてもつとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **25** にマークしなさい。

- ① 人々が、自分の住む場所により近い工場へと移動するようになるということ。
- ② 人々が、工場などの働くことのできる場所の近くに住むようになるということ。
- ③ 工場で生産されたものが、生命活動の場へと送り届けられるようになるということ。
- ④ 工場で使われる原材料の生産が、その工場の近くで行われるようになるということ。

問九 空欄 **P**・**Q** に入る語句の組み合わせとしてもつとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **26** にマークしなさい。

- ① P とはいえ Q というのも
- ② P それゆえ Q すなわち
- ③ P さらに Q たとえば
- ④ P もつとも Q つまり

問十 傍線部E「工業に汚染される以前の自然環境を取り戻す」とあるが、なぜ工業によって自然環境が汚染されてしまったのか。その理由としてもつとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **27** にマークしなさい。

- ① 生活が営まれていた地域共同体の自然環境が、工業の生産機能の都合によって振り回されることになったから。
- ② リーマン・ショックやコロナ・パンデミックで、大量生産・大量消費を目指す工業社会の矛盾が露わになったから。
- ③ 工業社会が重化学工業の段階に移ったことで、生産機能の変動に生活機能が引き回されるようになったから。
- ④ 人間の生命活動に必要な自然環境の自己再生能力を犠牲にしなければ、工業は産業として成立しえないから。

## 現代の国語、言語文化

問十一 傍線部F「『環境』と『文化』を合言葉に」とはどのようなことを意味しているか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 

28
----

 にマークしなさい。

- ① 近代以前の生活様式を取り戻すために、空気や水や緑を再生しようとする事。
- ② 生活様式を自然環境に調和させるようにし、自然環境の再生を図っていくということ。
- ③ 都市に自然を創造することで、人間の生命活動に必要な生活様式を取り戻すということ。
- ④ 自然環境の再生と生活のための経済活動の再生を、どちらも両立させるということ。

問十二 問題文の内容に合致するものを、次の①～⑥の中から二つ選び、解答記入欄 

29
----

 にマークしなさい。

- ① コミュニケーションの拡大を可能にした情報通信技術は、人間同士の調和的な生命活動を回復していくために用いるべきである。
- ② 地域共同体における社会システムが成員間の自発的協力ではうまく機能しない場合に、政治システムによる強制的協力が必要となる。
- ③ 前近代社会のような、経済システムと社会システムが統合されていた地域共同体を取り戻すには、要素市場をなくす必要がある。
- ④ 地域共同体で行われる農業は工業と異なり、自然の自己再生力を破壊して自滅することのないように、「生ける自然」を原材料としてきた。
- ⑤ 工場は交通の要地に立地する傾向があるが、そこから分離した管理・企画機能を担う部門は、人口が多いことを立地の条件とする。
- ⑥ 「根源的危機の時代」を克服するため、日本も「持続可能な都市」をモデルに生活の「場」としての地域共同体を再創造する必要がある。

## 現代の国語、言語文化

〔四〕次の問題文は、室生犀星『火の魚』の一節である。作家である「私」は自身の小説の表紙に金魚の魚拓（魚の像を墨などを使って写し取ったもの）を使いたいと考え、装丁家の折見とち子へと依頼の手紙を出した。以下の場面は、その手紙に対する折見とち子の返信から始まっている。これを読んで、後の問い（問一～問十二）に答えなさい。

A わたくしは生きています。金魚を殺せるような恐ろしい女ではありません。いかなる情理があつても或いは人間なら一人くらいは殺せても、金魚をまともに殺すという意識のもとでは、到底、これを殺すということが出来るものではないです。作家であるあなたに対して敢てこのおしごとの上で、重ねてお訊きしたいことは、どうして死んだ金魚を発見するかという一つのことなのでございます。これは一つ是非お教えになつていただきたいのです。どんなに極悪非道な人間でもいきなり握り潰して金魚を殺すことが出来ても、晴れた美しい水中に喜んで泳いでいる彼女をどんな人でも、いきなり手掴みで殺せるものではないです。作家であるあなたが作家のゴウマン（ア）さが知らずにはたらいっている時は、私はこの妙なおしごを或いは多少の押しつけがましい気はいをこめて、お求めになつたらしいヒガ目も起り、悲しい非情のお手紙を何度も拝見しました。この妙な手紙はわたくしの何十年かの間に、ただ一つ手紙という物に対してきつとなつた、物珍しい手紙でございました。要はあなたが自身が死んだ金魚を持つていらしうて戴くことなのです。その上でわたくしに魚拓の技術があつたら、おしごとをおたすけしたいと思つて居ります。この折見とち子の手紙は立派であつて、どうして金魚を手に入れるかに私自身も、折見とち子は困るだらうと思つていたので、そこで私はまだ急がなくてもいいのだから、何処かで金魚が見つかった時でいいから作成して下さい、併し生きています。金魚は魚拓にとれないものだらうかと筆のついでに書いてやると、お急ぎでないのなら何とかいたしますが、生きています。さかなを魚拓にとるなんて、途呆けたことを仰言つてはいけません。先ず、酔で洗つてからの仕事ですから、生きていては、さかなを殺して了うことになるのです。実は一応はお断りはいたしましたものの市場のある通りの金魚屋をたずね、魚拓という魚のすがたを必要があつて写し取りたいのですが、生きた価格はお支払いしますから、死んだ金魚を頒けてくれませんか、何時でもいいから、死んだら取つて置いて下さい、お勤めの道順にお店の前を通ることになっていきますから、ちよいちよい寄つて見ますとお爺さんにたのむと、金魚は毎朝あがる奴もいますから、そんな訳ならお帰りにお立ち寄りになつて下さいと言つてくれ、わたくしは三年子くらいの大きさがほしいと言ひ、金魚屋とケイヤクしたのですが、それから一週間あいた通いつめてみても、大きい金魚はなかなか死なないらしく、何時も小さく気の毒に瘦せたコドモばかりでございました。みんな眼をおおきく開いて未だ見なければならぬ物を沢山に見残した、そういう、さん念そうな開眼死様でした。一週間も経つとさすがのわたくしも、死魚を尋ねることに気遅れを感じ、お爺さんがどういふものか此頃金魚はあがらなくて、どれもこれも意外に元気なのです、こんな不思議なことは今までは滅多にないことですが、どうか、気永にお訪ねくだ

## 現代の国語、言語文化

さいと言ひ、わたくしもつい度々のことで気の毒になり、二尾の大きい三年子を買ひ取つて持つてかえりました。彼女の死をねがう人間の手に提げられた金魚は、一尾は白の交つたぶちで、一尾は火を噴いている真紅に黒の斑点が雜つていました。わたくしはそれを硝子の鉢に入れ、夕方もどると先ず彼女らに眼をやり、朝もその美しさに見とれていたものの、次第にそのどちらかのさかなの死をねがうことに渝りがなく、そんな氣になつていられるのもあなたという作家のせいだと思ひ、作家をにくむ氣にさえなつていたのでございます。わたくしに何の因縁があつて此の哀れな魚族の死を俟たなければならぬ原因があるのでしょうか。朝と夕方にかれらが生きているので、まあ、宜かつたと思ふ半分にあるかないかの絶望感が、わたくしの生きて宜かつたという氣持の半分を、ちゃんと先き廻りして領しているのです。それはこのさかなを買つた寸前から、すでに、さかなが死んでくれなければわたくしの仕事が始められない事、死を俟つために買つた原因などが、世の中の人の飼う金魚などと異つた条件が、わたくしをユウウツにし更めてお断りしようかと考えるに至つたのでございます。(中略)

ところが今朝何氣なく硝子鉢の中を見ますと、驚いたことには、その一尾のぶちの方がお腹を横たえて死んでいるじゃございませんか。わたくしはその死の原因をたずねる必要もなく、また、あれほど昨夕は元氣であつたのにという回顧もしてやらないで、よく死んでくれたわね、という褒め言葉さえ浮んで来て、さつそく彼女を手のひらに乗せて魚拓にする心構えをいたしました。尾の尖端は金魚屋にいた頃から既に擦れ切れていたらしく、このさかながいかによく三年間も永い間生き抜いていたことや、頭部になりに深い傷あとがあつてそれが治つている状態から見、取り分け彼女がふだん健康だつたことも判りました。わたくしは用意の酢でからだを洗い、ぬめぬめしたものを取り去り、硯の墨を永い間かかつて摺り、美濃判紙を机の上に白々と展げました。その間に此間から今日までの雑念は一さいなくなり、あなたを意地悪だとお手紙に書いたことも、さらりと忘れて晴ればれた気分になり、いまは天上降下の彼女を精神こめて写し取ることにセンネンいたしました。頭は海ばらの波頭に向き、尾は裂けながら空をつんざいている一尾の炎となつたさかなを、わたくしは彼女のからだに墨を刷きながら尾はつばさのようにばさつくのを耳に入れ、固くとりられた口元からわたくし自身の悲鳴に似たものさえ、啾々として聴きとりました。こんな嘘みたいな大仰のありさまが三四十分間続いたあとに、五枚の魚拓はついに完成したのでございます。我ながら尾も鱗も翼のような張り方を見せ、口を閉じながら一文字に何物かに突入してゆくさまが、瞬間に燃え切つた炎のように、ジリジリという火ばなを撥いて往くのが眼に見えるようでした。尾を開いて力を籠めさつと刷き、頭部は悲しみに怒りを交ぜた氣持でやってくださいと、あなたの指揮どおりにやりとおした時に、これは普通の魚拓ではなく、わたくし自身がナイフか何かでいま刻みこんでいるのだという感概を、このお仕事の中頭にかべていた信念でございました。作家であるあなたの指揮された言葉がなかつたら、こんな美事な飛躍した急所が掴まれなかつたかも知れません、此間じゅう作家という者をにくみ、あなたもいい加減な方だと思つていたのに、

# 現代の国語、言語文化

いまはあなたがご自分で出来ないことでも、言葉をあたためた瞬間から与えられた言葉は別の人間に  
 拠って、あなたご自身でおやりになることと、些すこしも渝ありない事をいしくも発見\*いたしました。

※問題作成の都合上、文章の一部を改変した

\* 啾々としてし小声で力なく泣くさま。

\* いしくもし見事に。

問一 二重傍線部(ア)～(エ)と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選  
 び、解答記入欄 31 34 にマークしなさい。

- (ア) ゴウマン 31
- ① キョマンの富を得る  
 ② 注意がサンマンになる  
 ③ 気力がジュウマンしている  
 ④ マンセイ的な疲労

- (イ) ケイヤク 32
- ① イケイの念を抱く  
 ② ヨケイな心配をかける  
 ③ 卒業をケイキに髪を伸ばす  
 ④ ゴケイ的な関係を結ぶ

- (ウ) ユウウツ 33
- ① ハイユウにサインをもらう  
 ② ユウリヨしていた事態になる  
 ③ ユウゼンとした態度  
 ④ ユウカンに立ち向かう

- (エ) センネン 34
- ① 建物をセンキヨする  
 ② 選手センセイを行う  
 ③ センダツに教えを乞う  
 ④ センオウ的にふるまう

問二 二重傍線部 (a) の漢字の読みとして正しいものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **35** にマークしなさい。

(a) 提げられた

- |   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| ④ | ③ | ② | ① |
| か | あ | さ | さ |

問三 傍線部 A 「わたくしは生きている金魚を殺せるような恐ろしい女ではございません」とあるが、折見とち子はなぜこのように言ったのか。その理由としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **36** にマークしなさい。

- ① 生き生きと泳いでいる金魚をつかまえて、いきなり殺すことなど誰にもできないと思われるほど非情なことだから。
- ② 何の理由もないのに、生きた金魚を握り潰して殺すことなど誰にもできないと思われるほど非情なことだから。
- ③ 喜んで泳いでいる金魚を殺すなど、極悪非道な人間でない限り誰にもできないと思われるほど非情なことだから。
- ④ 魚拓という目的のためだけに、生きている金魚を殺すことなど誰にもできないと思われるほど非情なことだから。

問四 傍線部 B 「多少の押しつけがましい気はいをこめて、お求めになったらしいヒガ目も起り」とあるが、折見とち子はどのようなことを言おうとしているのか。もっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 **37** にマークしなさい。

- ① 魚拓のために金魚を殺すことを、悪いと思わないのはおかしいと感じたということ。
- ② 魚拓の仕事を半ば強引に自分にやらせようとしているように感じられたということ。
- ③ 殺生はいけないという当然のことを説教してしまい申し訳なく感じたということ。
- ④ 無理なことを頼んでいるとわかっていて遠慮がちのように感じられたということ。

## 現代の国語、言語文化

### 問五

傍線部C「二尾の大きい三年子を買って持ってきた」とあるが、なぜ金魚を買うことにしたのか。その理由としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解

答記入欄

38

にマークしなさい。

- ① 金魚屋で死魚を尋ねると金魚に対して罪悪感を覚えるようになってきたから。
- ② 金魚屋に行くたびに小さな金魚の開眼死様を見るのに耐えられなくなってきたから。
- ③ 一週間も経つうちに、だんだんと金魚が死ぬのを待つことが嫌になってきたから。
- ④ 金魚屋のお爺さんがなかなか死魚を渡せないのを申し訳なさそうにしていたから。

### 問六

傍線部D「絶望感」とは、どのようなことに対する「絶望感」か。もっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄

39

にマークしなさい。

- ① 見とれるほどの美しさの金魚たちもいずれは死んでしまうことに対する絶望感。
- ② 金魚の死をねがう気持ちだんだんと強くなっていく自分に対する絶望感。
- ③ 金魚が死ぬのを引き続き待たなければならない自分の状況に対する絶望感。
- ④ このままでは金魚たちを自ら殺さなければならなくなることにに対する絶望感。

### 問七

傍線部E「作家であるあなたの指揮された言葉」とあるが、この「言葉」について折見とち子はどのように感じているか。もっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄

40

にマークしなさい。

- ① その言葉をあたえられた人が、作家の意図を的確に実現することができる言葉である。
- ② その言葉通りに魚拓をとることが、魚をナイフで切るような感慨をもたらす言葉である。
- ③ 普通の魚拓ではなく、魚の悲しみや怒りを訴えるための魚拓を生み出す言葉である。
- ④ 自分が想像したものと全く同じイメージを、別の人にも抱かせることのできる言葉である。

## 現代の国語、言語文化

問八 傍線部F「こんなに美事な飛躍した急所」とは、どのようなことを意味しているか。もっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 41 にマークしなさい。

- ① 単に普通の魚拓をとっているのではなく、ナイフか何かで魚のすがたをいま刻みこんでいるのだと感じられたこと。
- ② 火花を散らして躍動しながら、まっすぐと何かに突入していつている瞬間を捉えたかのような金魚の魚拓のこと。
- ③ 作家の指揮どおりに行ったことで、自分をはじめに予想していたものとは、大きく異なる出来になった魚拓のこと。
- ④ 美しく、迫力があつて生き生きとした魚拓にすることを可能にした、作家による言葉での指揮のこと。

問九 問題文の表現の特徴についての説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 42 にマークしなさい。

- ① 折見とち子からの手紙を引用し、その文を読点でつないで一文を長くすることで、折見とち子が饒舌でせわしない女性であることを示唆している。
- ② 一つの段落を長くとり、ゆれ動く折見とち子の心情の描写を区切らずに積み重ねていくことで、金魚の死が徐々に迫っているという感覚を読者に与えている。
- ③ 平板な文章にすることで、金魚の死に関する描写から、読者が心理的な距離をとりながら読めるように工夫がされている。
- ④ 折見とち子の手紙文をそのまま記載するという体裁をとることによって、読者に語りかけているような印象を与えている。

問十 問題文の内容に合致するものを、次の①～⑥の中から二つ選び、解答記入欄

43

44 にマークしなさい。

- ① 作家である「私」は最初、折見とち子が金魚を殺さず生きたまま魚拓にとつてくれるのではないかと考えていた。
- ② 折見とち子は金魚屋に死魚の代金を払うと申し出ていたが、金魚屋は死魚でお金を受け取る気はないようだった。
- ③ 折見とち子は金魚の死を待つあいだに、作家である「私」だけでなく作家そのものにくむ気にまでなっていた。
- ④ 折見とち子は、買った金魚たちに生きてほしい気持ちと死んでほしい気持ちとをちよほど同じ程度に抱いていた。
- ⑤ 金魚が死んだとき、折見とち子はそれをかわいそうだと思うこともなく、すぐに魚拓の準備に取り掛かることができた。
- ⑥ 魚拓にした金魚には、頭部に深い傷あとがあったことから、だいぶ弱っていたのだということが読み取れた。

問十一 室生犀星の作品を、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄

45

にマークしなさい。

- ① 抒情小曲集 じょじょう
- ② 若菜集
- ③ 道程
- ④ 月に吠える ほ